

畦道に咲くムラサキサギゴケ

少年時代を茨城県の田舎で過ごしたわたしだが、この野草には覚えがなかった。写真撮影をした株は、ことのほか色鮮やかで、輸入した園芸植物が野生化したのかとも思った。名前がわかるまで紆余屈折した。

わかれば簡単、「ムラサキサギゴケ」。サギとは大いに納得するが（下の写真）、コケは、現代ではない表し方。

蝸牛の頭のような形をした、花の上唇の下には、白い柱頭があり、その先は平たい2片に分かれている。もし虫が下唇に留まり、柱頭に触れると、上下に分かれていた先端は急速に閉じる。これは、虫の体に付いている花粉を、柱頭の中に閉じこめる仕組みなのだという。（1976年発行の週刊朝日百科「世界の植物」10号より）

この野草は、ホトケノザやオオイヌノフグリにやや遅れて咲く。





~~~~~